



学校だより 第9号

ぼ
菩

だ い
提

じ ゆ
樹

平成28年1月

高岡市立東五位小学校



見ざる・聞かざる・言わざる

校長 吉田 茂

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年の干支は、「猿」です。我が国において猿はたいへん馴染みが深く、古くからいろいろな場に登場し、様々な特徴を見せてくれます。例えば、「桃太郎」に登場する知恵のある猿、「猿蟹合戦」に登場するいじわるな猿、神様のお使いをする立派な猿…。自然界においても、温泉に入る猿、シカやイノシシの背中に乗る猿、高山で暮らす猿…。人間に芸を仕込まれた猿、等々いろいろです。

その中でも、日光東照宮の「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿は、特に有名なものの一つです。ところで…、

見ざる…目を隠して、何を見ようとししないのでしょうか？

聞かざる…耳をふさいで、何を聞こうとししないのでしょうか？

言わざる…口を押さえて、何を言おうとししないのでしょうか？



<日光東照宮の三猿の彫刻>

この言葉は、「余計なことには口出ししない方がよい」という処世術で使われることもあります。本来の意味は、『人間は相手の欠点や過ちを見たり聞いたり言ったりしがちだが、それらはしない方がよい』という戒めに使われるものです。地方によっては『子供の時は世の中の悪いことを見たり、聞いたり、言ったりしないで、素直なまま育ちなさい』という教育的な意味で使われることがあります。他にも民間では「目と耳と口を慎み、厄を避ける」という教えもあるそうです。

先日ある新聞に「10代4割『悪意の投稿』」という大きな見出しが載っていました。スマホ利用者を調査した結果ですが、インターネット上に投稿した人のうち、「悪意ある投稿」の経験者が10代で4割を超えていることが分かりました。悪意ある投稿の理由として、相手のコメントへの“反論”が最も多かったのですが、次いで「いらいらしたから」「コメントを見て不快になったから」が続きます。さらに、投稿後の心理についても「負い目」を感じない傾向が強まっているそうです。

上記の記事からは、携帯端末の普及により、倫理観の未成熟な青少年が安易に投稿している姿が想像できます。このことは、いじめやネットトラブル、非行等の犯罪に結び付くことが多いと危惧されます。また、スマホを媒介とした犯罪に巻き込まれる事件も連日報道されています。子供たちが被害者になる場合だけでなく、加害者にもなり得ることを、親子で真剣に話し合う必要があるのではないかと思います。

スマホの利用に関しては、「見ざる・聞かざる・言わざる」をしていては手遅れになるケースがあります。子供の現実の姿から目をそむけず、子供の言い分もしっかり聞き、親として言うべきことを言って諭し、使い方の約束をする、そういう親子関係をつくる努力から逃げてはいけなさと考えます。

